平井尚志の

なめとこ山通信

第75回　　歩いてきた

皆さん、こんにちは。会報の発行も今回と次回の、あと２回となりました。「なめとこ山通信」もセミファイナルってことですね。連載を応援してくださった方々に、感謝申し上げます。ありがとうございました。そして自分にも、（サボった時もありましたが）まぁ良くやったと言ってあげようかなって、思いです。ただ、連載の回を　重ねていくうちに、なんだか等閑になってしまったと言いますか、情熱が薄れてしまった感があったかなと、私の拙文を楽しみにしてくださった方には申し訳ない気持ちもあります。すみませんでした。まぁ、潮時、ということかもしれませんね。今後、何か書きたいなってことがあったら、自分のブログの方に載せることになるかもしれません。そちらの方も、よろしくお願いします。いつまでも、長～く、ゆる～く、皆さんと繋がっていたいとは、思っているんです。

さて今回の「なめとこ山通信」は、「歩いてきた」なんて、題してみました。ネタがないので、また振り返りです。と言いますか、これから先の話もしてみようかなとは思います。お時間ありましたら、お付き合いください。

20 年前の 2005 年の夏、私は、アメリカのシェラネバダ山脈に沿って作られた、ジョン・ミューア・トレイルというトレッキング・ルートを歩いていました。出発点のヨセミテ渓谷から、ゴールと決めたホイットニー山までの約 340km の一本道です。ほぼ３週間をかけて、森の中や山の稜線、何もない荒野を黙々と歩きました。３週間分の食糧を背負うことはできませんでしたので、大体１週間歩いてトレイルを外れ、街へ出て食糧を補給してまたトレイルに戻る、ということを繰り返しました。なんでそんなことをする時間があったのかというと、あの頃の私は、仕事に就いていなかったんですねぇ。まぁ、自分で辞めてしまった訳なのですが。・・・あの頃は、開頭手術の後に発症したてんかんの発作で、時々、意識を失うことがあったのでした。（今は　すっかり、治ってしまいましたが。）あの時の旅には、薬も持っていったんだっけか、どうだったか、・・・今から考えると、よく出かけたなぁと思います。足を骨折した後でもあったんです。皆さん、１週間分の食料を背負って、山に登った経験はありますか？　もうそんなことは自分もできないかなって思います。それなのに、いまだに、また歩きたい、この先を見に行きたいって、そう思うんです。

30 代の終わりに結婚して、子どももできて、40 代は真面目に仕事をしました。ずっと、非正規雇用でしたけれど。まぁ、30 代で遊び過ぎた代償なのです。そうして同じように、50 代になっても、何かを取り戻すかのようにせっせと働きました。50 になった時はまだ、非正規雇用だったんですねぇ。ついこの間、今勤めている学校の生徒に、「仕事に就いたら、軽々に辞めてしまってはいけないよ」という話をしたところです。そのついでに、ちょうど 50 歳の時に（3 月号の雑誌発行時は、51 歳になっていましたが。）アウトドア雑誌『BE-PAL』に、投稿した私の文章が載ったという話をしました。それは、「アウトドア好き１００人の夢」という特集でした。その中で　私は、「60 歳になったら、アパラチアントレイルを踏破したい！」と書いているのでした。アパラチアン・トレイルというのは、アメリカ東部のジョージア州からメイン州へと、14 の州を貫いて続く、3500km にも及ぶ長大なトレイルです。スルー・ハイクするには半年くらいかかるかなというロングトレイルなのです。私が影響を受けた加藤則芳さんが、踏破した記録『メインの森をめざして』という本を出していて、講演会も聞きに行ったりしました。また、その頃、ロバート・レッドフォード主演でアパラチアン・トレイルを踏破するという映画もあって、あぁ自分も歩いてみたい、と思っていたのでした。『BE-PAL』の中で私は、「60 になったら」って書いていたんですよ。それを、思い出したんです。

先日、高校時代の友達が集まって、飲み会をしたのですが、そのときの話題は「俺たちもう、60 だなぁ」ってことでした。そうなんです。私たちは、丙午（ひのえうま）の学年で、私は 1 月生まれなので 1967 年生まれですが、1966 年が、丙午の年なのでした。そして、次の丙午は 60 年後ですから、来年の 2026 年が、丙午の年になるのです。友人たちは来年、還暦という訳です。えっ！「60 になったら、アパラチアントレイル」なんて、絶対に無理じゃん！って、思ったのでした。今、仕事を辞めるわけにはいかないし、娘がせめて大学を卒業するくらいまでは働いていないとなとか、いろいろ考えたのでした。それでも、全く諦めてしまったわけではないんです。

私が懇意にしていただいている方の中に、「とうとう後期高齢者になっちゃったわよ」とかおっしゃっている、特別支援学校で知り合った〇石さんという方がいらっしゃるので

すが、その方はなんと、昨年、スペインの巡礼道である、サンティアゴ・デ・コンポステーラを歩いてきた方なのでした。ま、サンティアゴ・デ・コンポステーラは、熊野古道のようにいくつかルートがあったりして、その中で比較的歩き易いルートを踏破したそうなのですが、それにしても、そのお年で、そのバイタリティは凄い！と思ったのでした。〇石先生は、熊野古道も歩いているのですが、熊野古道とサンティアゴ・デ・コンポステーラとは「姉妹道」の協定があるそうで、二つの巡礼道を歩いた人には「共通巡礼者（DUAL PILGRIM）」の証書が発行されるということで、それを見せてもいただいたのでした。いやぁ～、凄すぎる。けれどこれで自分も、あらためて「70 になってからアパラチアントレイル」って、思えてきたところなのでした。

わたしは目に見えない手だけではなく、目に見える線（ライン）によって導かれていた。無数の生き物たちが前へ進み、導き、あとに従い、道を逸れ、つなげ、近道を見つけ、その目印を残すことによって刻みつけた道という線によって。地球の生命の歴史は、歩くことでつくられた一本の道とみなすことができるだろう。わたしたちはみなその道の継承者だが、同時に開拓者でもある。一歩ごとに、わたしたちは未知へと踏みだし、道に従い、そこに新たなトレイルを残していく。（ロバート・ムーア著　『トレイルズ「道」を歩くことの哲学』）

特別支援学校で産休代替をしていた時の生徒に、毎年ちゃんと年賀状をくれる生徒がいます。今年の年賀状には、「今年はいよいよ、20 代最後の年となります。」と書いてありました。もうずいぶん会っていないので、会ってみたいなと思っています。

一つ前の勤務校で担任をした時の生徒で、ボクサーになった生徒がいます。時々、試合を見に行きますし、一緒にキャンプをしたこともあります。彼の試合が、3 月にあります。勝ったり負けたり、また勝ったり、と来ていますが、「今度負けたら・・・」という思いがあるようです。ずっとボクサーを続けていくのは、本当に大変なことだと思います。とにかく、精一杯、応援してこようと思っています。

みんなそれぞれ、自分の道を進んでいるのだと思います。悔いのないように頑張って、と、陰ながら応援しています。

私もまた、ずっと、歩いてきました。そうしてまた、歩いていくのだと思っています。これからも、ずっと。